

## 平成29年度 第2回小城市協働によるまちづくり検討委員会 議事録

- 開催日時 : 平成29年12月25日(月) 午後3時～午後4時50分
- 開催場所 : 小城市役所 西館 2階 大会議室
- 出席委員 : 五十嵐委員、森永委員、福地委員、古賀委員、右近委員、上瀧委員、  
相川委員、相浦委員、原委員、濱崎委員、大坪委員、光石委員、  
石橋委員、中島委員、西岡委員、赤松委員、木下委員
- 報告者 : 三里まちづくり協議会設立準備会 富永正樹代表  
(小城市協働によるまちづくり検討委員会設置要綱第6条による)
- 事務局 : (総務部 企画政策課)  
熊谷企画政策課長、池田企画政策課副課長兼企画経営係長、  
池田市民協働推進係長、中島主事
- 関係課職員出席者数 : 7名
- 傍聴者数 : 2名

### 《 議 事 録 》

午後2時 開会

## 1. 開 会

○熊谷企画政策課長

定刻になりましたので、平成29年度第2回小城市協働によるまちづくり検討委員会を始めさせていただきます。

本日は、12月、大変お寒い中、そして年末のお忙しい中に御出席いただきましてありがとうございます。

委員の中で、欠席の御連絡がありましたのは、井本委員、公民分館長の大松委員、民生委員の高岸委員、消防団の下村委員からは欠席の御連絡をいただいております。

地域婦人会の福地委員は、御連絡がなくまだお見えではありませんが、定刻になりましたので、早速始めさせていただきます。

それでは、五十嵐委員長、よろしくお願いたします。

## 2. 議 事

### (1) 協働によるまちづくり事業 啓発・情報発信について

#### ○五十嵐委員長

皆さん、どうもこんにちは。今年度第2回目の検討委員会でございます。

今年度、大きな課題になっておりますのは、この取り組みが広く市民に十分伝わっていないと。市民に広く知ってもらうための取り組みについて、それから、来年度、何とか三里地区でまちづくり協議会が立ち上がる方向で、今精力的に準備を進めておりますので、その三里地区のまちづくりのモデル事業の経過について御審議いただきまして、次年度につなげていきたいと、そういうふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、まず議事の「(1)協働によるまちづくり事業 啓発・情報発信について」ということでございます。

事務局より御説明をお願いいたします。

#### ○池田市民協働推進係長

皆さんこんにちは。企画政策課市民協働推進係の池田といいます。よろしくお願ひします。座って説明をさせていただきます。

議事の「(1)協働によるまちづくり事業啓発・情報発信について」、資料1で説明をしていきたいと思ひます。

まず、五十嵐委員長のほうからも言われましたが、前回、9月28日の今年度1回目の検討委員会で、いろいろなルートで協働によるまちづくりがなぜ必要なのかということについて、市民の理解を増やす努力をみんなで考えていく必要があるという御意見がございました。そこで今回、さまざまな形で啓発・情報発信をしておりますので、御紹介をしたいと思います。

まず初めに、『協働によるまちづくりリーフレット』を平成29年12月に作成し、12月5日の区長文書配達で全戸配付をしています。リーフレットにつきましては、お手元に配付をしているかと思ひます。「これからの協働によるまちづくり みんなが主役の地域づくり・まちづくり」と書いてあるリーフレットをご覧ください。

リーフレットを開いてもらったページの内容は、検討委員会で審議していただき2年前の27年11月作成している内容と同じになってはいますが、最後のページは、協働によるまちづ

くりの実践例について、より具体的に三里まちづくり協議会設立準備会の取り組みを記載しています。

リーフレットの表紙には、12月13日に開催しておりますが、「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」の案内を掲載し配布しました。

続いて、三里の取り組みを含めて、写真、動画を撮影して、ケーブルテレビ、ネットで流す等、視覚的に訴えたほうがいいのではないだろうかという意見がありましたので、ぶんぶんテレビ「小城市だより」と、市の情報発信動画「おぎゅっと」を作成しましたので御紹介をしたいと思います。

まず、ぶんぶんテレビ「小城市だより」をご覧くださいと思います。

こちらは、12月4日月曜日から16日土曜日まで、1日3回、午前9時45分からと午後5時からと午後7時45分から放送されていたものです。

〔 ぶんぶんテレビ「小城市だより」放映 〕 10分45秒

#### ○池田市民協働推進係長

続いて、市のホームページからも見ることができる市の情報発信動画「おぎゅっと」ですが、5分弱ぐらいの動画になります。三里地区で開催したまちづくりワークショップの様子がよくわかるようにできている番組ですので、そちらをご覧くださいと思います。

〔 小城市HP「おぎゅっと」放映 〕 4分30秒

#### ○池田市民協働推進係長

この2つの動画、「小城市だより」と「おぎゅっと」は、12月13日水曜日の牛津公民館で開催しました、「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」でも上映しております。

資料1の最後4番目ですが、広く皆さんに地域づくりを考えるきっかけとなるよう「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」と題して勉強会を開催しています。A3の用紙にまとめております。こちらをご覧くださいと思います。

12月13日夜の7時から9時まで開催をしております。

参加人数ですが、全員で83人の参加でした。各地区それぞれ参加をしてもらっていますが、市民の方が67人、議員さんが4人、職員が12人の計83人の参加になっています。

「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」の案内は、区長さん、公民分館長さんには個別に案内をしました。また、民生・児童委員さん、消防団、地域婦人会、老人クラブ、ボランティア連絡協議会には会議の際に御案内をしております。市民活動団体については、団体

紹介のパネル展示の依頼と一緒に参加の案内を送付しております。議員さんにも、個別に案内をお渡ししております。

そのように皆さんに案内を出したり、市報へ掲載、また、ぶんぶんテレビの小城市だよりも広報をしましたが、ちょっと予定していました人数よりも少ない 83 人の参加になっています。

勉強会の内容ですが、まず市長の挨拶で始まり、小城市のほうから協働によるまちづくりの必要性について、人口減少、少子高齢化が進む中での今後のまちづくりということでお話をしています。

その後、「地域コミュニティと協働の地域づくり」と題して、本検討委員会の委員長であります五十嵐先生からお話をさせていただいております。

最後に、三里まちづくり協議会設立準備会の取組み発表ということで、代表の富永さんのほうから発表をさせていただいております。

また、勉強会開始の 1 時間前から市民活動団体紹介のパネルを展示しておりました。皆さんにそのパネルもご覧になっていただけたのではないかと考えております。

勉強会の際にアンケートを実施していますがその集計結果です。参加者が 83 人、アンケートの回答者が 60 人、回収率が 72.3%でした。

性別で見ますと、男性が 73%、女性が 25%。

年齢層で見ますと、10 代・20 代が 5%、30 代が 3%、40 代が 8%、50 代が 3%、60 代が一番多く 49%、70 歳以上が 32%で、60 代以上の方が 8 割を超えており大半を占めていました。

お住まいの地区ですが、バランスよく各地区から来ていただいておりますが、やはり牛津公民館で開催しているということもありまして、牛津の方の参加が多かったのかなと考えております。

続いて、本日の感想ですが、「興味深かった」が 28%、「勉強になった」が 60%、「難しかった」が 10%という感想をいただいております。

続いて、小城市の説明、講話、三里まちづくり協議会設立準備会の発表の理解度です。

小城市の説明については、「よく理解できた」が 32%、「大体理解できた」が 56%となっております。

五十嵐先生の講話については、「よく理解できた」が 57%、「大体理解できた」が 30%

となっております。

三里まちづくり協議会設立準備会の発表については、「よく理解できた」が 32%、「大体理解できた」が 47%となっております。

続いて、三里まちづくり協議会設立準備会の活動の認知度ですが、「知っていた」が 58%、「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らなかった」が 17%、「知らなかった」が 25%となっております。

最後に、住民主体のまちづくりに向けた取組みの必要性についてですが、「早急に必要だと思う」という方が 45%、「今は必要ないが、今後必要になってくる」が 38%、「必要ない」が 2%、「わからない」が 12%となっております。

最後に、自由記述ということでA4の両面に記載しておりますが、さまざまな意見をいただいております。

まず、桜岡校区の 40 代の女性の方です。「三里地区でまちづくり協議会が立ち上がり、見本となって他の地区でもまちづくり協議会が立ち上がればと思います。今、高齢者（老人会）は老人会、子どもクラブは子どもクラブ、と単独で動いており、連携をどうとれば良いのかわからないのではと思います。」や、次の 2 番目の 40 代女性は、「コミュニティ組織の編制改革は、小城市の様々な地区で必要だと思う。特に今後、防災においては女性目線・子ども目線の対策が必要となってくるので、力を入れていきたいし、みなさんにも興味をもってもらいたい。」を書いてありました。

11 番目の、三里校区の 70 歳以上の女性は、「一人一人が意識をもって取り組むべきだと思っております。」や、12 番目の三日月校区の 10～20 歳代の女性も、「住民主体の活動のスタートは、当事者意識であるということを学べ。」と、当事者意識を持つことが必要と書いた方が数人いらっしゃいました。

14 番目の三日月校区の 60 代の女性は、「小城町のまちづくりは住民主体というよりも各団体が個々に取り組んでいるように思う。情報を共有して一本化することが必要だと思う。」という意見もありました。

後ろのページになりますが、17 番目の牛津校区の 10～20 歳代の男性も、「当事者意識を持った人たちを増やすことに意識を持たないと協働によるまちづくりは進まないと思いました。」や、21 番目の牛津校区の 60 歳代の男性は、「協議会を組織化することが目的であるよりも、住民、各種団体、多世代（特に 30～40 代）が参加して、対話による地域の課

題・生活の課題を共有している過程が重要である。「この過程（ワークショップ）が協働の一步であることがわかった」という意見もありました。

28 番目芦刈校区の 70 歳代の女性は、「地域に誇りをもつことが地域の活性化になるのでは。とても刺激になり参加してよかった。」や、29 番目最後は市外の方ですが、60 歳代の男性は、「ゆるやかなネットワーク→入りやすくなる。当事者意識をもてるようになる。」と、いろいろな意見を記入していただいております。

前回 9 月 28 日の今年度第 1 回の検討委員会での意見を受けて、啓発リーフレットを作成し全戸配付し、啓発動画を作成しています。また、地域づくりを考える講演会を開催しています。これで議事の 1 番目「協働によるまちづくり事業啓発・情報発信について」説明を終わります。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。市民に広く知っていただくための取り組みとして、リーフレットを全戸配付したこと、それからぶんぶんテレビ、それから「おぎゅっと」、そこでの動画配信を行ったこと、それから、先日、講演会、あるいは勉強会を行ったということの報告がございました。

皆さんいかがでしょうか。実際に、ぶんぶんテレビを見たり、「おぎゅっと」の動画を見たり、あるいは 12 月 13 日の勉強会に参加された方もおられると思いますが、何でも結構です。どうやったら広く市民に知っていただけるかという今の取り組みについて、御質問、御意見等をお願いいたします。

### ○光石委員

前回の会議で、まだまだ協働によるまちづくりが、知っている方がなかなかいないということで、いろんな広報、市民の啓蒙が必要じゃないかということでお願いしましたが、五十嵐先生の後押しもあって、これだけペーパーベース、電波ベースでいろいろやっておられてありがたく思っています。

それで、効果は上がっているのじゃないかなと。数少ないんですけど、今までは「協働によるまちづくりって何」という返事が来たけど、2、3人、ああ知っているよと。今日も、全く違う土建業者の専務の方とちょっと話していたんですけど、「3時から協働によるまちづくりの会議に出るから」と言うと、「ああ、知っているよ。今盛んにやっているね」というようなことで、事務局のおかげで大分市民に徹底してきたんじゃないかと思っています。

それと、この 13 日の「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」、このときの五十嵐先生の講演がすばらしかったと思います。協働によるまちづくりってなかなか理解できなかったんです。協働とは何かとかあったんですけど、先生のこの前の講演を聞いて、非常に何か、まちづくりのスタートから終わりまで、おかげで明快に理解できました。

それと、前回の会議でこれも、いろんな講演会がせっかくあっているから皆さんに案内状でお知らせしたらということでお話ししていたんですけど、牛津の 13 日の会議みんなで考えようも案内状をいただいて、ああ、案内状来たなと思って行きました。それで、三里のまちづくりの実態も非常にわかったし、ありがたく思っています。

それで、今日ちょっとお願いしようかと思ったんですけど、せっかく三里でスタートしていますから、きょう富永さん見えていますけど、やっぱり経過報告もあるし、各校区でそれぞれ違うと思うんですけど、三里の実態を皆さんよく知って、三里からの問題点も提起してもらったり、こちらからまたそれはアドバイスしたり、相互の話し合いができるかと思います。ぜひ三里地区の協議会の進展を毎回知らせてもらいたいなと思っています。

以上です。

## ○五十嵐委員長

どうもありがとうございます。

私もそれなりに一から市民にわかっていたたくつもりで、平易な説明をしたつもりでおります。なかなか協働のまちづくりについて、特に高齢者の方に理解していただくのが非常に難しいということと、若い人たちはそもそもそんなに関心がないと、その 2 つの狭間の中でどのあたりにターゲットを絞って話すべきかいつも悩むんですけども、予想どおり比較的高齢の方が多かったので、平易な説明に努めたつもりでおります。

それで、1 つ私なりに気になったのは、参加者で比較的高齢世代の方の参加が少なかったと。あるいは女性がちょっと少なかったというところで、これはやっぱり行政が流すこの種のイベント案内というのはなかなか情報が拡散しにくいのかなと。NPOの方々、私、小城でNPO活動をされている方々のフェイスブックとつながっているんですが、そこで情報がアップされたり、シェアされたことは実は見ることはありませんで、市民活動団体がパネルは出してくれていましたけれども、そういうやっぱりSNSが今回余り情報の拡散にはつながっていないような印象がありました。小城市はフェイスブックというのはあるんですけど、市公式フェイスブックはあるの。

○池田市民協働推進係長

はい、あります。

○五十嵐委員長

そこで上げてあるの、今回のやつ。

○池田市民協働推進係長

フェイスブックには…

○五十嵐委員長

上げていないですよ。

○池田市民協働推進係長

はい。

○五十嵐委員長

やっぱりそれは大事で、若い方々に少なくとも情報を出すときには、その種のものもぜひともこれから活用していく必要があると思いますので、それ一つ上げれば、あとはいろんな人がそれをシェアしてくれる時代なので、もう少し情報が広がったかなという気はいたします。今後それも検討していただきたいと思います。

それから、三里を今進めておりますが、三里の動きも何かSNSで情報をアップできませんかね。これはまた次の議題になりますけれども、もう少し若い方々に知っていただくための方法はまだまだある。諦めずに努力する必要があるかなと、そのように思っております。

皆さん、ほかに何か御質問、御意見等ございますでしょうか。はいどうぞ、お願いします。

○森永副委員長

私は、この「おぎの地域づくりをみんなで考えよう!!」という表のところの2番目に載っております岩松の区長会の会長をしておりますけれども、市の企画政策課の協力を得まして、青少健、全体協議会、区長会、育友会で開催する地区懇談会でワークショップ等を何回か開催しております。

私はいつも思うんですけども、なかなか区長が各行政区で動員をかけますが、この表にありますとおり、岩松から5名しか出席がないということで、私は都合であり行けなかったんですけども、ちょっと恥ずかしい数字ですが、いつもこの懇談会、ワークショップ等は各校区で六、七十人ぐらいしか人間が寄らないんですよ。いろいろ声かけをしても、やっぱりもともとの参加者が少ないと、どうにも会合というか、こういう組織、こういうもろもろ



の計画がどうしてもうまいとこいかないんじゃないかと。だから、私が思うには、この動員をいかにしてかけるか、人をいかにして集めるかということは一番根本に考えて計画を、もし私たちの岩松地区でそういうことをするとなったときには、この動員をもうちょっと真剣に考えていきたいと思っております。

以上です。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

市民の意識を高めるために、本来はこの種のもものは自主的な参加が大原則ですけれども、ある程度の動員という力の働きかけ、これはやはり必要だろうと私も思っています。その場合に、行政が先頭に立ってやると、また上からのお仕事かと思われがちなところがありますので、そういった点にうまいこと、この委員会の方々なりNPOの方々なり、いろんな側面支援をしていくことで参加者数を増やす、そういう努力が必要かと思っております。

これは三里はいろいろやってきましたが、始めたころと比べれば着実に増えているでしょう。どうですか、そうでもないですか。

#### ○富永代表

横ばいです。

#### ○五十嵐委員長

横ばいですか、そうですか。

ほかに広報、普及啓発、情報発信について御質問、御意見等ございませんか。感想でも構いません。何でも結構です。ございませんか。はいどうぞ、大坪さん。

#### ○大坪委員

公募委員の大坪です。今、普及のための情報発信等を議論されていて、私は別の視点を考えていたんですよ。三里のワークショップに参加させていただきました。それで、実際参加してみると——部外者で済みませんでした。でも、実際これが協働の形だとよくわかったんですよ。

それと、この間の勉強会も参加して、やっと小城市 13 年目、協働の指針策定懇話会から参加して、やっと動き出して、すごかやんねと感じたんですよ。ですから、この取り組みを各地区でしたらどうかな、参加してください、協働関与ということ、表面じゃなくて実際自分の我が地区でしてみらんねということ、この委員会、行政と関係団体が一緒になって

地区で話し合うけん来んねという機会をつくっていかれたほうがいいかなと私は思ったんですね。

それと、今月、市報「さくら」もう見られているかわかりませんが、14 ページのほうに高齢障がい支援課が「地域づくりを一緒に考えませんか」、地域包括ケアのことを出されていますけれども、これがいい機会かなと思うんですよね。

さっき五十嵐先生が言われた高齢者の部門、地域に行けば子育て支援のこともあります。防災のこともあります。高齢者の部門から一緒にみんなで一回考えてみようかということを経験発信して、それから三里みたいないろんな防災、地域の自然、伝承文化、それをみんなで、小城市では協働は企画政策課ですけれども、防災は総務、消防、交通、福祉部局のほうでは介護保険の包括ケアシステム、また生涯学習課で公民館、地域の全部を横並びに一緒に考えましようと言ったら動員力も上がってくるかなと思いましたので。それが今後の、来年度の情報提供と取り組みかなと私は感じました。

一応提案だけです。ありがとうございます。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

今の御提案の御趣旨は、それぞれ個別の課題があると。福祉だったり子育てだったり、そういう個別な課題について、各地域、地区で検討する際に、こういう考え方、つまり、いろいろな人がそこにかかわってほしいと、関係者だけ集めてやるというようなものではなくて、いろいろな人の意見が吸い上げられるような、そういうやり方をしたらどうかという御提案というふうに今理解いたしました。そうですね、はい。

まちづくり協議会、この協働というのは、もう全ての課題、テーマについて、みんなで集まって議論しますので、確かに焦点が非常に広いということがあります。個別の課題、テーマについて、行政がいろんな説明会等をやっていると思いますけれども、そういう場合になるべく多くの色々な方に参加していただけるようなやり方を導入することで、その輪を広げていけるのではないかという御提案かと思います。私は全く大賛成です。関係者だけ集まれといっても、やはり小さい集まりになってしまうことはよくあるだろうと思います。ありがとうございます。

ほかにございますか。はいどうぞ、福地委員。

#### ○福地委員

婦人会からの福地です。私は、この会議とは別に、また「牛津町ぼどがんかしゅうさ」という、ちょっと長い文章なんですけれども、その会議にも参加しております。その会議のときもその会議のときも思うんですけれども、やはりさっき言われたように、会議に参加している人はわかっているけど、なかなかそれが外に出ないということを感じますので、とにかく何かしているよというのを見せなければいけないよということで、何年か前からイルミネーションを小さく牛津町のほうでクリスマスを境にちょっとしております。これを今度盛大にしようということで、今度店舗のほうにも依頼して、サンタさんをつけたり、イルミネーションをしたり、これを牛津町のこのまちづくりでしていますよというのをアピールしようということでしておりました。

このごろ、ちょっと夜、佐賀のほうまで出る機会がありまして、わざわざ帰り道にそちらのほうに入っていったんですよね。そしたら、全然それを知っていないだろうと思う友人が、あっ、イルミネーションがあるよねとかいうふうに、やはり口伝えでそれが動いている、ただ、そこがまちづくりがしているよというのはまだまだいっていないんですけれども。だから、何かしているよというのを見せない限りは、みんなには伝わらないかなというのを痛感しまして、その後、コンサートをされたのも、まちづくりがしているよというふうに強調していこうと今のところ決めて実行しております。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

「牛津ぼどがんかしゅうさ」という活動は、これは民間の人たちが集まってやっている、行政はかかわっていないやつですか。

#### ○福地委員

市役所の方からも、来られてはいます。

#### ○五十嵐委員長

あ、そうですか。それは活動としては長いんですか。

#### ○福地委員

そうですね、2年ぐらいありますね。ただ、前はもっと、今、本当に力を出して、イルミネーションをつけてくれた人たちの地道な作業まで入れたら、もうちょっと長いかなと思います。

#### ○五十嵐委員長

この前の勉強会のところの個別コメントの中に、小城市は市民活動、団体の活動は盛んだと。しかし、住民活動みたいなものがなかなか見えにくい。恐らくNPOだとか、何々会だとか、そういった活動が非常に目立って、普通の住民の方の地道な活動が見えにくいということが印象としてあるのかなと思っておりまして、日常的に行っているさまざまな自治会の活動だとか、婦人会、PTA、老人会、色々な活動をされていると思うんですけども、それが市全体としてどれくらい共有されているのかというところの理解度、これは極めて重要だと思っています。そういう意味で、そういう身近な地域活動、そういったものをいかに見えるようにしていくのかということが、これから重要な課題になるだろうと思っています。

少なくとも三里については、そういう活動がこれからどんどん見えるようになっていきますので、ほかの地区でもいかにしてそういう活動を市民に知ってもらえるのかと、その方法についても検討していく必要があるかと、そんなふうに思っております。

ほかに何かございますか。はいどうぞ、お願いします。

#### ○西岡委員

この間、貴重な講演を聞かせていただきありがとうございました。

五十嵐先生の講演の中で一番印象に残ったのが、要するに当事者意識ということですね。当事者意識を持たせるにはどうしたらいいかということが一番頭に残っておりまして、今後、三里で環境活動をする上において、じゃ、どういった形で引き込んでいくのかとか、小城市内で市民活動をやっていくにはどうやって皆さんを巻き込んでいくのかということで、今いろいろ考えておりまして、このところ2つほど見えてきたといいますか、ああ、こういうやり方もあるんだなと思ってきていました。三里で梅の剪定や、あるいはオリーブの下草刈り、伐採とか、いろいろやっております。そういうのを見て、牛津高校生、高校生が積極的に言うんじゃないんですけども、やっぱり先生方がこれは必要だから学生たちもぜひ協力してくれという話になるわけですね。そうしますと、やはり学生たちも素直に10人、20人参加して手伝いをしてくれるということで、今後、三里でも牛津高校は毎月1回そういう活動に携わりたいと。それから、西九州大学もそうですね。月1回は活動に参加したいということで、そういったところが一つの当事者意識ということじゃないかなと思っております。

それからもう一つ、つい先日、小城ルーテル教会で幸せのクリスマスの火というイベントを行いました。そのときに西九州大学にお願いをしまして、約10名ほどのボランティアを募っていただいて、1人欠席で9名来ていただきました。基本的には、来た根拠は、単位が

欲しいということであるわけですから、根拠はどうでもいいかなというところなんです  
が、問題はその後ですね。

食事をするとき、8時に終わってからのいろいろ片づけ等ありますので、その間、中で食事をしているときに私もちょっと行きまして、みんながわいわい食事をしていましたところに行き、今こういう活動をしているんだと、これは市民活動として重要なことだといって、皆さんどうだという話をしたときには、余りいい返事は来なかったですね。積極的な返事が出なかったんです。今、市民活動センターでお手伝いをしてきている大学生がいるんですが、その子に少し話をしてくれと。してくれましたところ、実はその9人の中の2人が、1人は三里の上右原出身ですね。もう1人は、納所から今年1年生という子がいて、その子が要するに仲介をしてくれたことによって、じゃ、お手伝いをしますよという話になったわけですね。

だから、私が思ったのは、私が言ってもなかなか積極的に入ってこないんですけども、やっぱりそれ相応の、同じ年代の学生だったら、やはりもうSNSで名前を交換したりして、じゃ、何月何日にこうやるから、じゃ、30日にやりましょうとか、そういう具体的な話ができたとのことですから、やはり同じ年齢層が同じ年齢層を当事者意識を持ってもらうには早いのかなという感想でございます。

以上でございます。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

地域づくりで、小学校区単位を前提にした活動をこれから進めていきたいということで、どうしても小学生とか、小学校ということが一番重要なキーになるんですけども、今、お話がありましたように、高校生だとか、大学生だとか、そういった人たちに入ってもらうような仕掛け、それをうまくやっていると、広がりはもっと出てくるだろう。当事者意識を持ってくれそうな若者もちょっと増えてくれるだろうと、そういう期待について御紹介いただきました。どうもありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。はい、お願いします。

#### ○相川委員

今、話を聞いていまして、私が言うのはちょっと逆行するかもわかりませんが、自分が住んでいるところのことをじっくり考えてみて、何で今せんばかなと、なぜ必要なのかな

と。それと、これをやって何が得になるかと、自分にとって何が得になるかと、そういうふうなことも考える必要がありませんか。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」というのはありますけれども、やっぱり、人を動かすということとは非常に難しいと思います。

それで、あなたがこれをやることによって、どういうことがいいことになりますよとか、自分の子ども、孫たちが住みよいところになりますよとかいうようなやつをまずは見せてやらんと人は動かんと思う。話すことももちろん必要ですけど、それから、中で核になる人、例えば富永先生みたいにですね。または木下さんとか核になる人が絶対に必要と思うです。その人たちがまずどこでもいらっしゃるかという、そうではないわけ。そこら辺が非常に難しくないかなと思います。

協力をする人、それから理解者を増やす人、そういうふうなことが、ちょっと今頭の中に浮かびました。失礼します。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

こういう活動をすることによって、何が具体的に解決されたのかとか、何が変わったのかとか、確かにそういう実績をそれぞれが確認できれば、あ、やらんといかんねということになるだろうと思います。

その試みを、今、三里地区が本格的にやり始めたというところで、これから三里地区が取り組んでいる活動の中身から、あ、こんなふうなことがよかったね、こんなふうに変ったねみたいなことを積極的に情報としては公開をしていく必要があるだろうと思っています。

それと、確かに引っ張ってくれるリーダーは不可欠です。そのリーダーを、自治会とか、小さい単位で見ても、なかなかやってくれそうな人がいない。もうちょっと小学校区まで広げたら、やってくれそうな人がいるはずだという期待で多分行くしかなくて、そういう活動を通じて、やはり人との出会いもありますし、意外と新しい人でリーダーになる人も出てきてほしいし、育てなければいけないなと思っています。

あるいは、既に活動実績のあるNPOの方々の支援をいただくとか、さまざまな形でリーダーを育成していくことは当然必要になってくるだろうと、もうおっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

市民に知っていただくための2つの動画、あの中身どうですか。最初のはちょっと固い印象があったかなという気はするけど。2番目のはやはり動画の性格なんでしょうか、わかりやすく、インパクトがありました。最初のはちょっと固い印象がどうしても、やっぱりお役所がつくったなという印象がどうしてもあって、もし、まだまだ修正つくのであれば、もう少しやわらかい雰囲気できないかなと、そんな印象はあります。

ほかにございますか。

ああいうのは、著作権上、動画サイトにアップしたらいけないの、ユーチューブとか。

#### ○池田市民協働推進係長

「おぎゅっと」の短い動画はユーチューブでも見ることができます。

(「2つ目のほう」と呼ぶ者あり)

#### ○池田市民協働推進係長

はい、2つ目のほうです。「小城市だより」は、確認をしないと分かりません。

#### ○五十嵐委員長

あ、そうですか。

ほかに何か御質問、御意見ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

## (2) 三里地区地域のまちづくりモデル事業 経過報告について

#### ○五十嵐委員長

今後とも、この活動の広報にいろんな形で努力をしていただくということで、次に進めさせていただきます。

これともかかわりますので、三里地区をモデル地区というふうにしておりますので、そのモデル地区とは一体どういう意味なのか、広く市民に知ってもらおうと、あるいはこの検討委員会でよりよい方向性に導くための、ある意味、指針となる。そういった意味でのモデル地区ということにしておりますので、この取り組みについて、今までの経過報告をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

#### ○池田市民協働推進係長

議事の「(2)三里地区地域のまちづくりモデル事業経過報告について」、資料2で説明を

していきたいと思えます。

初めに、これまでの経過及び今後の予定を説明します。

まず、全市的にワークショップとはどのようなものなのか理解してもらうために、ワークショップを実施してみませんか、それぞれの地区の区長会に投げかけをしておりますが、そのワークショップを三里地区では平成 28 年 11 月 6 日に、「将来に備えることをみんなで考えよう!!」と題して開催しております。48 人の参加でした。その後、モデル事業に三里地区で手を挙げられました。まず、2 月 21 日に三里のまちづくりを考える勉強会を、内閣府の地域の中間支援者(アドバイザー)の派遣を活用して、「小規模多機能自治による住民主体のまちづくり」と題して、島根県の雲南市の職員の方を招いてお話をお聞きしました。31 人の参加でした。

2 月末から 3 月初めにかけて、三里地区の方を対象に、まちづくりアンケートを実施しています。回収数が 425 件で、回収率が 53.4%でした。3 月末から準備会立ち上げに向けた会議を開催されています。まちづくり協議会設立事前準備会と呼んでいますが、この会議の初回を 3 月 28 日に開催されています。この事前準備会の構成人数は 8 名で、三里振興会の役員、平成 28 年度の三里地区区長会会長・副会長など、それに三里で活動されているまちづくり団体の役員、2 ページ目を見ていただければ、三里まちづくり協議会設立準備会の名簿を添付していますが、1 番から 11 番までの 11 人が事前準備会のメンバーとなっています。その皆さんで 3 月 28 日、4 月 13 日、5 月 18 日・31 日、計 4 回まちづくり協議会設立準備会立ち上げに向けた会議を実施しております。

その後 6 月 14 日に三里まちづくり協議会設立準備会を立ち上げられています。立上げ初回の準備会の出席者は 32 人です。

2 ページ目の名簿の 39 人が準備会のメンバーです。

1 番から 11 番が事前準備会のメンバー、12 番から 26 番が行政区の区長さん。27 番から 31 番が三里地区で活動されていらっしゃる地縁団体の代表、32 番から 35 番が生産組合協議会の代表、36 番、37 番が小学校、保育園、38 番、39 番が三里地区在住・出身の市役所職員の代表、計 39 人が設立準備会のメンバーになっていらっしゃいます。

6 月 14 日に設立準備会立上げ後、7 月 23 日に第 1 回まちづくりワークショップを実施されています。第 1 回のワークショップは参加者が多く 75 人の参加でした。その後、8 月 9 日、8 月 23 日に準備会を開催され、9 月 10 日に第 2 回目のまちづくりワークショップを实



施されています。この時は行事が重なったこともありまして、39人の参加で、ちょっと少ない参加になっていました。

10月4日、11月8日に準備会を開催され、11月26日に第3回目、最終のまちづくりワークショップを参加者49人で実施、その後、12月20日に準備会を実施されています。

今後の予定もある程度決まっております。1月、2月、3月と準備会を開催しまして、3月25日、この頃までにはまちづくり協議会の規約や、まちづくり計画(プラン)、組織体制を三里地区の皆さんに報告できればということで、報告会を予定されています。そして、5月には仮称ですが三里まちづくり協議会の設立を予定されています。

準備会の、開催回数が多いのですが、ワークショップの前にはこういった内容にするのかという打ち合わせをし、ワークショップの後にはまとめ・整理を行うということで、回数が多くなっています。

資料の3ページ目、まちづくりワークショップの内容を詳しく書いています。

7月23日の第1回ワークショップでは、まず、小城市から地域のまちづくりのモデル事業について説明をしています。その後ワークショップに移りますが、ワークショップの進行は、市が委託契約している専門のファシリテーターが行っていきます。第1回目は、三里地区が取り組むべき課題、テーマについて話し合い、今後の方向性を考えて行きました。

このテーマというのは、11月6日に実施している「将来に備えることをみんなで考えよう!!」ワークショップやアンケートの結果から、事前準備会・準備会で協議し「人を活かす」「歴史・場所を活かす」「高齢者への対応」「子育て応援」「防災・安全安心」の5つのテーマを決めています。

9月10日の第2回ワークショップでは、そのテーマごとに三里のまちづくりの柱と未来目標を考えました。テーマごとの目標を考え、またテーマを超えて一緒にできることを探して行きました。

11月26日の第3回ワークショップでは、2回目のワークショップはテーマ目標を考えましたが、そのテーマ目標をさらに磨き上げて、三里まちづくりプランの策定に向けて全体目標を考えて行きました。

今、テーマが5つありますが、準備会ではこの5つのテーマでいくのか、数を減らして3つ4つにするのかということ、部会にも関わってきますので協議をされているところです。

最後になりますが、これまでの課題ということで、気づく範囲でまとめています。

まず、まちづくりアンケートの回収率が行政区によってバラツキがありました。回収率が100%の行政区もあれば、回収率が22.7%の行政区もありました。回収をお願いしている区長さんの意識の違いを埋めていく必要があるのではないだろうかと思っております。

まちづくりアンケートの対象を中学生以上に実施してもよかったのではないかと。各世帯に2部ずつアンケートを配付しておりましたが、世帯でもやはり年配の方が記入される場合が多かったため、若い方の意見を広く収集するためにも、中学生以上ぐらいから全員を対象に実施してもよかったのではと思っております。

アンケートを書いてもらうことによって、活動の周知にもつながるのではないだろうかと考えています。

次に、準備会への出席者数が回を重ねるごとに減少している。準備会の各種団体の代表の出席者が少ない。第1回準備会の立上げの会議は32人出席でしたが、先日の12月20日の会議では17人の出席と、少なくなっています。

行政区の区長さん全てが出席されているわけではありませんが、名簿の左側の区分にあります「地域」「生産組合協議会」の名簿番号27番から35番の代表は、あんまりというか、ほとんど出席されていないという状況が見受けられます。

準備会の開催回数が多過ぎるのか、また、各種団体のまちづくりへの参加意識の醸成がまだまだ図られていないのではと考えています。

次に、まちづくりワークショップへの参加者の減少。新規に参加を促すことも必要ですが、3回のワークショップを通して、参加してもらう工夫も必要だったのではないだろうかと考えております。

まちづくりワークショップへの若い方、女性の参加者が少ない。特に育友会や青少年健全育成会育成会への参加を促す取り組みも必要ではないだろうかと考えております。

また、まちづくり協議会設立準備会と公民館、三里地区は支館になりますが、支館との関わりが薄い。今後の活動において、公民館との連携は必要になってくるため、市役所内、庁内で公民館とまちづくり協議会との関係を整理していく必要があると考えております。

以上で議事の2番目「三里地区の地域のまちづくりモデル事業の経過報告について」説明を終わります。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

まず、検討委員会から木下委員さん、それからオブザーバーで三里まちづくり協議会設立準備会代表の富永さんにお見えいただいておりますので、何か補足等ございましたら。

**○富永代表**

ちょっと説明をしたいと思います。

**○池田市民協働推進係長**

パワーポイントを用意されています。

**○五十嵐委員長**

では、お願いします。

**○池田市民協働推進係長**

今からいいでしょうか。

**○五十嵐委員長**

いいです。お願いします。

**○富永代表**

皆さんこんにちは。それでは、三里の今までやってきたまちづくりの経過報告といえますか、それからいろいろ課題等もございますので、その辺をちょっとお話ししたいと思います。

本当に年末の忙しいところ、ありがとうございます。私の話は10分、15分ぐらいで終わらなきゃいけないみたいなんですけれども、この間の牛津の勉強会のときには、本当に五十嵐先生のわかりやすい説明をいただきまして、私もこの自由意見のところに書いたんですけども、できれば先生のお話をDVDで各地区に回して勉強してもらったらどうかなという思いをして帰りました。

これは、この間の牛津とちょっと繰り返しになりますけれども、今、市のほうからも課題が出されましたし、いろいろ経過の報告もありましたけれども、このパワーポイントを使ってやっていきたいと思います。

<パワーポイントにより説明>

とにかく今お話がございましたけれども、地域の連帯感、意識、そういうものが非常に希薄になって、田舎のほうも、もう都会と一緒にような感じになっています。

また、三里は、少子・高齢化が進み市のほうでも一番人口減少も進んでおります。高齢化率も34.5%っているのじゃないかと思います。50%になると限界集落で、本当に地域の組織の活動維持ができなくなる、非常にそういう危機感を持っています。

また、いろいろ住民のニーズも多様化している。今、国や地方の財政的面も非常に厳しい状況で、とにかく自分たちの地域は自分たちで守ってつくっていく、磨いていくんだという、そういう意識がこれからは必要になるのかなど。今、意見が出ました当事者意識というんですか、やはりまだびんどこない状況がありますので、本当に、いずれ自分がお世話になる身になる、あるいは人に世話をされるというところに行く、そこをしっかりと見きわめて、今、元気なうちに何とか三里を支えていける力になればという意識をまず醸成していかないといけないんじゃないかなと思います。



これは、三里小学校の生徒数は55人になってしまいました。一番多いときは550人ぐらいいたんですね。私たち団塊の世代ですけれども、550人ぐらいいました。もう10分の1です。高齢人口も33.1%となっていますけど、もう少し上がっています。人口も今減っていますし、戸数も410戸を切りました。非常に少なくなっています。



これは、黄色から赤色と高齢化率ですけれども、進んでいますまさに山が紅葉しているような感じでございます。



これは、人口ピラミッドですね。やっぱり高齢の人口、団塊の世代、私たちが一番——この辺が一番多いところですよ。



取り組むきっかけと今申し上げましたけれども、やはりこういう人口減少、地域の連帯感、あるいは地域力、三里にあったそういう元気な力をもう一回、活力のある力を取り戻さなきゃいけないという、そういうために、何とか皆さんの力をかりて取り組みを進めていかなきゃいけないというところで、モデル事業に取り組むようになりました。



アンケート、先ほどおっしゃいましたけど、今年の2月実施していますが、ずっと住み続けたいという方が約7割いらっしゃいます。



田園風景、自然も豊かで、そういうものが三里の宝だという方が7割以上。

それから、人口減少、少子化、これが非常に心配だ、この方たちが6割。



これからまちづくりをするならば、とにかく一緒にできれば参加したいという方も半数以上いらっしゃるわけです。この数字を見て、少しほっとしたところなんですけれども、今、報告もございましたけれども、なかなか横ばいで参加する方が今少なくなっております。



これは、今ずっと説明がございました、来年の5月に協議会を立ち上げるという準備で今進めております。今年最後の準備会が、この間12月20日終わりましたけれども、1月からまた数回の準備会を開催しました、3月、報告会、そして、5月にいよいよ立上げ。

何かこの立上げが目的みたいになっちゃうとまずいんです。立上げてからが本番なんですね。なかなか参加者が少ないというのは、見えないからだと思うんですね。何やっているか見えない。やはり立上げてからは、今度は見える化ですね、やはり見て、あそこ楽しそうだな、あの集まりは何か楽しそうだな、じゃ、ちょっと参加してみようかと、それぐらいの魅力あるサークルなり、たまり場なり、そういうものをこれから本当にしっかり立上げて、5月以降は一つでも二つでも、少しずつできるところから形にしていけば、皆さん見えてくるんじゃないかなと。今、見えないから、やはり何かこう、何やっているかわからないということで、参加意識が薄いようなんですけれども、やはり参加して、汗かいて、何か結果が出れば、また次の目標も決まるし、モチベーションも上がるんじゃないかなと思います。だから、悲観はしておりません。5月以降、本当に見られているという意識で、私たちも見られていますから、やはりいろいろ努力をして、皆さん方に何か見せられるものをこれから見せていかなきゃいけないという思いであります。

お店というのは、商売というのは、やっぱり飽きさせちゃお客さん来ないですね。やはり飽きないことを毎日毎日、やはりお店なんかも模様がえをしたり、商品を開発したりしますから、我々も三里も飽きない何か、いろんなものを考えながらやっていかなきゃいけないという思いです。



これは事前準備会の様子ですね。11人でやっていました。



6月14日の準備会の立上げの様子です。



準備会は、全部で11回程度を予定しており、全員で39人です。



これはワークショップで、ホールで3回やりました。



これが最後のワークショップです。説明もございましたけれども、テーマを「人を活かす」、「歴史・場所を活かす」、「高齢者への対応」、「子育て応援」、「防災・安全安心」という5つにテーマに絞っていますが、今、4つほどに絞りかけています。「人を活かす」、「歴史・場所を活かす」、「高齢者への対応」と「子育て応援」は一つにしたらいんじゃないかと。それと、「防災・安全安心」の4つのテーマで、そして、部会をしっかりと立ち上げるには、3つぐらいに絞ったらどうかというところで、1つ目は「人を活かす」「歴史・場所を活かす」を1つにする。2つ目は「高齢者への対応」と「子育て応援」を一つにくくって、3つ目は「防災・安全安心」、3つぐらいに絞って、具体的に部会を考えて行こうかというところまで来ております。



これは最初のニュースですね。こういうものを地域の皆さんに流しております



5つテーマを皆さんにお知らせしています。



3回目最後のワークショップワークショップの呼びかけです。



「人を活かす」、三里にはいろんなスキルを積んだ人材がいらっしゃいます。そういう方たちの力を活用して、そして、人材バンクみたいなのをしっかりつくって、そして、元気なお年寄りはまだ働いてもらう。

「歴史・場所を活かす」、歴史はもういろんな古い歴史もございますし、あるいは場所は、いろんな、先ほども出ていましたけど、梅林、お寺もございますし、そういうところを生かしながら、子育てとか、あるいは地域の元気を引き出す何かイベントをやったり、そういうことをしようじゃないかと。

「高齢者への対応」、高齢者でも元気な方いらっしゃいますので、そういう方たちが高齢者を支えていく。そういう支え合いの環境をつくっていく。高齢者には「教育」と「教養」

が必要、勉強というんじゃないで、「今日行くところがある」、そういうものをたくさん増やす。あるいは「今日用がある」、あっちに用があるもんねと、そういう場所をこれからは三里でつくっていくと。

「子育て応援」、これから、今も三里ではふるさとふれあい自然塾という、小学校の子どもたちに地域の方たち関わりながらやっています。そういうものをもう少し今度は地域の方たちにもっと参加をしていただいて、そして、健全な青少年育成、これから三里をあるいは小城を引っ張っていくリーダーをつくる、そういうことも考えていかなきゃいけないんじゃないかと。

「防災・安全安心」、三里は晴気川、牛津川を東西に持っていますけれども、そういう河川の安全、あるいは急傾斜が、三里の場合は山べたにずっと集落がございいますので、そういうところもやはりしっかりと点検をしていく。あるいは農業地帯でございいますので、農地の保全等も考えながら、地域の安心な環境をつくっていく、そういうことをやらなきゃいけないと思っております。



「三里の豊かな自然を活かし、子どもたちが誇りを持てる地域を目指して!!」ということで、とにかく1人1翼、1役でもいいんですけども、1人1翼で、「みんな輝く三里づくりを目指して」ということで、「天の里」、これは歴史とか文化だと思うんですね。それから「人の里」、人材が豊かなところ。あるいは「地の里」、命の源であるいろんな農産物の生産地でもございいます。そういう天地人のこの3つの里をしっかりと磨いて、そして魅力ある、活力ある三里をつくっていかなきゃいけないのかなと、そういう思いでございいます。

いろんな人が集って、そして触れ合って、そしてそこで触れ合うことによって学び合うことができるわけですね。そして、支え合うこともできるんです。そういう支え合い、人が集い、触れ合い、学び合い、そして支え合う、魅力ある三里を目標にこれから協議会を立ち上げた暁には、そういう三里の地域を考えて今進めておるところでございいます。

今、課題等がございましたけれども、三里でSNSなんかをやったらと、それはまさに私も賛成なんですけれども、私自身、個人的にはなかなかそういう方面では暗いほうで、SNSじゃなくてSOSを出したいぐらいなんですけれども、若い人を活用して、そういうことをして、見える化の一翼を担ってもらえるような若い人を育てていかなきゃいけないなと思っています。

それから、やはり人口がなかなか増えない、若い人たちが入ってこない。これは一つは三里は全部、農業振興の網がかかっているんです。宅地転用ができないんですね。ここを何とかしてもやっぱり、保育園、小学校はすぐ隣り合っていますので、そこを中心にした近辺に、山べたのところとか、ちょっと住むところと住空間と、生産居住を分けて、網を外していただけないかなと。これから生産組合とも相談をしながら、それをまずしないと一丁目一番地だと思っています。もう家が建たないですから人が増えない。若い人も入ってこないというところがございます。

それからもう一つ、集落のコミュニティの弱体化ですが、地域で昔は常会というのを毎月やっていました。私も集落の集会有って、小さいとき、おやじがいないとき、「おやじどこに行った」と言ったら、常会有っているといつて公民館にみんな集まっているんですね。公民館というのは、公民の意識を持って館に入るわけですね。公民館に行って私事ばかり言ってもしょうがないので、やはり公民館に行ったら公民の意識を持って、そして、地域のことを考え、町のことを考え、市のことを考えるという、そういうコミュニティをまず基本につくらないと、これはやはりいろんな情報が共有できないんですね。草刈りを1年に2回か3回やったときに、そういう報告をしてもぴんとこないんです。だから、できるだけ小城市は三里だけでも月に1回は常会をせんばいかんねということにならないと、これは多分情報が伝わらないんじゃないかなと思っています。その地域の新しい力強いコミュニティをつくっていかないと、当事者意識の醸成にもつながらないんじゃないかなと思っています。

今、西岡委員が言っていましたけれども、やはり産・官・学ですか、行政は企画政策課が今やっていますけれども、この企画政策課の下にまちづくりサポート係ぐらいつくって、本当に実働で動くぐらいの課ができれば、もう少し動きが早くなるのかなという思いがしていますので、こういうのも課題かなと。

あとは、学は今、牛津高校、小城高校、それから小城中学校、牛津中学校と中学生もおります。そういう中学生が集まれるような、何か若者向けのいろんなことをやっぱり考えながらやれば、またそういう若い人も集まってくるんじゃないかなと思います。大学も佐賀大学、西九州大学がありますので、そういう方たちとしっかり連携して、三里だから三里の人だけでやるんじゃなくて、やはりよそから、CSOの団体、あるいはNPOの団体の方たちと一緒にコラボしながら、三里の魅力をできるだけ、一つでも多く魅力づくりをしていきたいなと思っていますので、本当にこれから見られている意識でしっかり頑張っていかなきゃいけ



ないんですけれども、皆さん方も見捨てないように、最後までいろいろ御指導、あるいは御助言を賜りたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございます。

### ○五十嵐委員長

どうもありがとうございます。

まちづくり協議会設立に向けて大変な苦勞をされていると思います。私なりの感想をあえて申し上げますと、こういうことでもない限り、自分たちの地域について語り合う場が今どれほどあるのですと。今の地域がどうなっている、これからどうする、語り合う場を皆さんお持ちですかということです。

少なくとも、三里においてはその取り組みを始められたと。この語り合う中から、自分たちの地域を何とか自分たちでやっぱり守っていかなといかなと、そういう当事者意識が生まれてくる。準備会とかワークショップに参加者がなかなか増えないとか、そういうことはよくわかります。それでも、私はやっぱり諦めるべきではなくて、そこに集った人たちが、まずは自分たちが地域を引っ張っていくのだと、そういう強い覚悟を持って取り組んで行かざるを得ないと、結局はそこなのかなと思っています。

こういう語り合う場、自分たちの地域について、足元の地域について語り合う場をしっかり持つこと、これが今回の取り組みの基本的な考え方だろうと思っています。酒飲んで愚痴を言うのは簡単です。しらふでまじめに、どうするのということの本気で語り合える場を私たちはつくっていかなければいけない、そういう時代だろうと、そんなふうに私は個人的に思っています。

そういう意味で、三里地区は何かと大変かとは思いますがけれども、この検討委員会としては、まずは三里地区を全面的に応援していきたい。三里地区で頑張っている姿を多くの市民に理解していただきたい。で、2番目、3番目に同じような活動が起こってくることを期待はしております。木下委員さん、何か補足はございますか。

### ○木下委員

三里まちづくり協議会設立準備会の代表は富永さんですけれども、副代表の木下と申します。どうぞよろしく願いいたします。

この人口減少問題というのは、三里だけの問題じゃなくて、日本全体の問題ではないかと思っています。1920年、大正9年ですか、日本で最初に国勢調査が行われております。

そのときの日本の人口というのは5,596万人ということで、現在の人口の半分より少なかったんですね。2年前が1億2,800万人、これが日本の人口で最高ですけれども、年々、これから減少をしていくということで、人口のピラミッドとしては逆ピラミッドになっていくというようなことで、我々が生活をしていく上でいろいろな影響が出てくるということではないのかなと思うんですね。その影響というのは、空き家が増えてくるとか、生産人口ですね。年少人口というのは0歳から14歳まで、15歳から64歳までは生産人口、65歳以上が高齢人口というふうに日本ではなっておりますけれども、生産人口がどんどん減ってきますと、工場が暇になってくると、生産ができないと。私が1951年、昭和26年、第2のベビーブームですから、第1が昭和22年から25年の間に3年間で、戦後800万人の赤ちゃんが生まれているんですね。それが第1のベビーブームと言われまして、そういう日本の人口の推移といますか、そういうことではないかなと思います。

それで、私もこの間お話ししましたように、平成26年12月にまちづくり検討委員会が設置をされまして、私は青少健のほうから委員として出席させていただき、五十嵐先生の御指導を受けて、富永代表に、三里はこのままではいけないという気持ちでした。

先ほどもパワーポイントでありましたように、三里小学校は現在55名なんですね。それで、先ほど述べられましたように、最高は506名。50年間のうちに、児童数が10分の1に減ってしまったんですね。これはもちろん、いろいろ影響がありまして、皆さん御存じのとおり三里は農業地帯です。それで、昔は猫の手も借りたいというぐらい忙しかったんですが、農業もどんどん機械化が進みまして、もうお父さんとおふくろさんだけで農業はできる時代ということで、息子さんは外に行って働いていいよというふうな現象も起きたんじゃないかと思っております。

市民の思いが反映されるまちづくりを進めるために、また、効果的で効率的な行政経営を行っていくために、協働によるまちづくり、市が今現在進めておりまして、三里のほうが第1番目に今やっているわけです。

協働によるまちづくりは、一朝一夕にできるものではなく、私は長い道のりだと考えております。先ほど言いましたように、三里地区は市とともに、その道を歩き始めているところでもございます。自分たちの地域は自分たちの手でよくしていこうというワークショップとかいろいろ開催することによって、自治の意識が少しずつあらわれてきたのかなという感じ方もしています。

ワークショップというのは、住民生活に密着したいろんな分野ですね、子育て等々の解決策を考えて実践していくことが大事なんです、やっぱりまずそこに住む人たちが顔を突き合わせて、いろんな意見を出していき課題が出て、その課題を解決していくのじゃないかなと思っております。

先ほど言われましたように、最近では地域の絆が薄れているということもありましたけれども、これから三里もまちづくりを進めていく上で、行政に頼らないまちづくりを目指そうと考えておりますが、その裏を返せば、行政が応援したくなるような三里のまちづくりを目指していきたいと思っておりますので、皆様方の御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

数日前、小城市で地方創生の進行状況をチェックするような会議がありまして、そのときに、全体として小城市は少子高齢化が進んでいるんですけども、地区によっては転入者が多くて、逆に子どもたちの教育だったり、さすがに待機児童まではないと思っておりますけれども、ある地区は転入者が非常に増えていて、それなりに課題を抱えていると。今、富永代表が言われましたように、三里地区というのは農地転用が難しく、住宅地がなかなか開発できない。小城市全体として人口の配置をどうしていくのかと、そういった大きな話の中で、場合によってはこの三里地区のように一番高齢化率が激しくて子どもの数が少ないところ、そういったところに移住者なり転入者を増やすような、そういうことで市全体としてのバランスをとるだとか、そういったことは当然検討の余地があるわけです。確かに、農振、農用地を簡単に農地転用できません。しかし、合併前から三日月町はそういうことをやってきて、ある意味、現在転入者を増やすようなことをやってきました。これは市全体の取り組みになるわけですが、そういう場合に、市のほうにやはり三里地区というのは、このままでは若い人がどんどん少なくなっていくって、人口のピラミッド構造上も非常に問題だと、何とか転入者を増やしてほしい。そのためには、三里地区のまちづくり協議会としてこういうアイデアを持っているというようなことを当然行政に働きかけることが協議会として可能になっていきます。

協働というのは、行政と住民と、それと事業所も、地域全体で助け合うのが協働です。事業所は事業所として地域活動ができるような働き方、そういったものを当然、企業等も考え

る時代です。働き方改革は、当然企業は考えなきゃいけない、ワーク・ライフ・バランスを考えなきゃいけない。したがって、企業、事業所も、やはりまちづくりに積極的にかかわっていく必要があるかと思えます。環境保全活動とか防犯活動があつて、熱心な企業はあります。そういった企業、事業所にもいろいろかかわっていただく必要が当然出てこようかと思えます。そういう意味で、いろんな人たちがやはり知恵を出し合つて、助け合つて、地域を何とか守っていくのだと、そういう意識が必要だろうと思つています。

三里地区が抱えている課題は非常に重くて、今、木下委員さんが言われたように、簡単に解決できるものではありませんけれども、諦めないという姿勢だけははっきり見えています。そういう姿勢が私どもが応援したくなる、そういう一つの大きな理由なのではないかな、そんなふうに私個人的には思いました。私ばかり話してなんですので。

今年最後の会議になりますから、この三里地区の取り組み等についての感想なり意見、あるいはアドバイス、何でも結構ですので、委員の皆さんから、御質問、御意見等をいただきたいと思えます。

よろしく申し上げます。

#### ○石橋委員

小城市全体の学童保育、放課後児童クラブの職員を雇用しています、NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会の代表です。

今、小城市全体の話と三里の話聞いて、今、放課後児童クラブが16クラブありまして、私どものNPO法人の職員として60人ぐらい雇用しています。女性たちがほとんどですが、結構若い方たちも、他の市町からも入ってきて、まず、学童保育のほうも国が随分力を入れて運営指針というものができ、地域との連携というのを物すごく言っていますので、何か活用できないかなと思つています。

放課後児童クラブを拠点に地域を連携する。今日も私は三日月の児童クラブに入っていましたけど、何が困っているって、ふだん、放課後は1時半ぐらいから7時までの勤務なんですけど、先生たちの中でインフルエンザが2人出たんですよ。そうすると、もう回らないとか、うちも総出で出るんですけど、ああ、こういうときに、地域に子育て応援の、ふだんは仕事はないんだけど、こういう時に助っ人で来てくれる方がいたら、すごく、今からあと2人ぐらい倒れられたらどうしようかな、放課後児童クラブは成り立たないということで、この話と児童クラブをつなげたいなというなのというのが1点あります。

それと、三里ですが、この人口ピラミッドをさっき見せていただいて、2020年に日本の人口の——オリンピックで浮かれている間に、2020年に日本の人口の女性の半数が50歳以上になるんです。これは何を言うかということ、産めないんです、さすがに50を過ぎると。もちろん、産める方もいるんですが、ほとんど産めないということになったときに、産める女性というのが激減するんですね。その激減と激減の中で、団塊ジュニアが産めない世代に入ってくるということで、かなり深刻に、一気に減少してくるだろうと思います。

それで、この三里地区の人口ピラミッドを見せていただいて、さっき計算したんですが、もう既に女性で60代以上が340人ぐらいで、50代以下が288人ということで、もう先取りをしているんですが、これを見ると、0歳から4歳の女の子が34人多いですよね。子どもの5歳きざみが、ずっと44人ぐらいで来ているのが、今の0歳児から4歳というのが56人とちょっと増えているんですね。

ですので、1つ御提案というか、私たちも何かやれないかなと思って、まず0歳から4歳の子どもさんを持っている御家族にやっぱり聞き取り調査。この子育て世代はアンケート調査、物すごく弱いんです。書く時間とか考える時間がないので、これは聞き取りをしていただきたい。

先ほど三里地区でこの子育ての案が出ていたんですが、私は、みやき町と吉野ヶ里町で今子育て支援をやっているんですけども、何かちょっと違うかなと。Newsの「子育てしやすいまちづくり」で「子どもが楽しく集まれる場所」というのが出ていたんですが、吉野ヶ里町の「News（ノイエ）」では、今、ママたちは病児・病後児です。インフルエンザのときに、子どもが2人いたら、2人病院に連れていくと、そのかかっている子がかかってしまう、罹患してしまうということで、ちょっと預かってくれる人とか、自分が倒れたときにちょっと見てくれるというのは、かなり深刻なので、それが出てこないということは、この世代がアンケートとうまくコミットしないんだなというのがあるので、これはぜひ聞き取りをしていただきたい。

あと、狙い目が25歳から29歳の女性か45人いるんですよ。ここがチャンスで、またもう1人産む可能性があるんで、この前後を、多分、この0歳から5歳の母親ということで、かなり重なると思うんですが、ぜひ聞き取りをしてほしい。そして、三里にはこういうふうな資源があるよとか、使えるよみたいなもののアピールも含めて、ここ2つを子育て支援でやっていただきたいというのがあります。これが2点目です。

もう一つは、私はみやき町で子どもが小学生のときPTAをしましてむちゃくちゃ忙しかったんですが、PTAの役員をしていたんですけど、一人一役というのをPTAでやったんですよ、全員サポーター制をとって。下の娘は25歳になったんですが、PTAの役員だった方たちは、みんな今担い手なんですよ。私たちが声をかけると、「いいよ、いいよ」と言ってくれる担い手なので、これPTAは本当にそれを見越して、今やれとは言わないんだけど、10年後ぐらいに担い手になるという、それは実は一人一役のサポーターのときに狙っていました、私たちは。

多分、ここは学習の場であるので、PTA活動は学習の場というのが多分PTAの規約にあるので、いずれ三里を担っていくというところを考えると、こういう聞き取り調査を、実はママたちとかPTAが中心になってやるとか、学童は今55人の子どもたちの中で20人近く学童に来ていますので、学童でも聞き取りはできるので、何かそういうことをうまく組み合わせると、私にもできる、先ほど言ったNPOとしてもできることがあるなということで、ぜひ聞き取りをしていただきたいというのをお願いしたいと思います

以上です。

#### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

まちづくり協議会が立ち上がって、子育て応援の仮に部会が、高齢者のサポートと一緒にやってやるような部会をもし立ち上げる方向であるならば、そういう今、御指摘があったように、子育て世代の親の方々に聞き取り調査を部会として行う、あるいはちょっとサポートしてくれる程度でいいから、高齢者の方々に子どもの見守りしてくださいというような活動を入れていくと。高齢者の応援と子育て応援を1つの部会でやることは、多分、そういったことが可能になるだろうということで検討されていると思いますので、今の御意見等も参考にされて、まちづくり協議会を立ち上げてからの調査研究も部会の仕事としてあると思います。課題の洗い出しだとか、そういったところでノウハウがないだとか、人がいないという場合には、NPOがちゃんと応援してくれるそうですので、人材を活用していただければと思います。

ありがとうございます。

ほかに御質問、御意見等ございませんか。感想でも構いません。

今、準備会のメンバーで、SNSができる人はいないですか。フェイスブックでも、ツ

イッターでも、つぶやける人は今おられないですか。

**○富永代表**

探してやったことはないですが、そこら辺をちょっと調べなきゃいけないですね。私はちょっと、そういうのが得意じゃないもんですから、若い人が多分いると思いますけどね。

**○五十嵐委員長**

多分いるはずですよ。そういう情報発信にもいろいろ努力をしていただきたいと思います。それを使うと共感を呼びますので。

ほかに御質問、御意見等ございませんか。はい、どうぞ。

**○木下委員**

さっき、これまでの課題ということで、事務局のほうに説明をいただいたんですが、準備会 39 名メンバーいるんですが、半分以下の出席なんですね。ですから、文書を発送されるときに、区長さんあたりに必ず代理出席をお願いするという文章を入れてもらっていいですか。代理の方をお願いしますと、各区誰かでいいですから。情報の共有がちょっとできていないので。

**○池田市民協働推進係長**

開催案内等は市役所から発送していますけれども、送付元は準備会となっていますので、そういった御要望ということであれば、代理出席の一文を入れて発送したいと思います。

**○木下委員**

できればお願いします。

**○五十嵐委員長**

多くの役職、行政区の区長さんだとか、任期があって、自分の任期中にやらなきゃいけないと強い意志をお持ちの方と、何となく任期うまいこと過ぎてくれればいいかなと思われる方、いろいろおられると思います。

まちづくり協議会ができ上がると、そういう既存の団体の役職、そういったものから一旦離れる形で、自由に参加できるような雰囲気をつくっていくことが多分大事で、この役職だから、これしなきゃいけないだとか、そういう義務感みたいなもの、最初はそれが当然残るんですけど、徐々にそういったものの縛りから解放されて、よっしゃ、やってやろうじゃないかという意欲的な人をいかに育てていくのかというのが、まちづくり協議会の大きな目的になると思います。

最初は代理出席までして、何とか強制的にということは、思いはありますけれども、それをいつまでも続けるわけにはいかなくて、どこかの時点で、やっぱりそこから離れて、自由に参加できるような、そういう垣根の低い組織にぜひとも仕上げていってほしいな、そんなふうに思います。

ほかにございますか。

必要であれば、またよそを見るという手もあると思います。ほかの地域で、今同じような悩みを抱えているんだけど、どんなふうに解決しましたかとか、また、よその地域に視察に行くとか、よその地域から人を呼んで話していただくとか、そういったことも同時並行でやっていく必要があるのかなと思っています。

はい、どうぞ。

### ○光石委員

この会議も今回の会議、大分充実して、少し見えてきたかなという感じがしてきました。

また、三里地区で準備会も、木下さん、それから富永さんを先頭に進んできているようですけど、やっぱり協力者が少ないというのが多いと思います。そうすると、やっぱり最初の話になりますけど、広報の問題、みんなに知らせるということで、効果がちょっと出てきていると思いますけど、今後とも、もっともっとやってもらいたいなと思います。

今、SNSの話も出ましたけど、区長から各戸に配付なんかもしていただいているようですけど、それは見る人は見る、見ない人は見ないし、テレビもチャンネル入れないと見ない、SNSも開かないと見ないということですが、さっきちょっと、牛津町ばどがなんかしゅうさですかね、イルミネーションの話が出ていましたけど、垂れ幕とか看板を立てたらどうか。実際、市役所ではこんなふうに一生懸命やっているんだよと、毎日の通学、通勤の際に垂れ幕を見て、ああ、市役所やっているんだな、屋上から垂れ幕を各支所、三日月、牛津、小城、芦刈、全部垂らしてもらおうと、子どもから老人までみんな見て、実感として湧いてくるんじゃないかな。看板でもいいし、垂れ幕でもいいし、目立つように、あんまりお金かけないでやっていったらどうかと思いました。

それともう一つ、知らせるということで、協働によるまちづくりというのが、本当わかりにくいんですよ。それで、さっき話があったけど、五十嵐先生の分かりやすい講義を各地区でやっていただいたら、先生がお忙しかったら、誰かほかの人に委託してでも。限られた人たちだけでなく、各地区でやっていただいたらいいかなと思います。



協働のまちづくりというのは、それで十分理解できると思うんですけど、さらに、実態として、三里地区で進んでいますけど、ちょっと関係があって呼ばれて行って、偶然にお聞きできたんですけど、雲南市の実態、あれは、さっき 30 人ぐらいの出席者と言われましたが、あれはもったいないと思いますね。あれを聞けば、そのとおりにはいかない、各地区の特色いろいろ入り込まないといけないけど、基本構想はあれでいいんじゃないかと思います。まちづくりのスピードがぐっと上がるんじゃないかなと。あの講師の方も、日本全国で有名で、引く手あまたで、本人が来られなくて市役所の代理の方が来られたというぐらいで。だから、呼ぶのはお金が要るかもわからないですけど、呼べないなら、資料等を皆さんに配付するか、勉強会するか、あれはすごくいい材料だと思います。

そこら辺、事務局、先生を初め、検討していただければと思っています。

### ○五十嵐委員長

ありがとうございます。

私であれば、お呼びいただければいつでもはせ参じる覚悟はできておりますので、お呼びください。

いろんなやり方で、行政、市のほうとしても普及啓発、いろんなチャンネルを使って精力的にやっていただきたい。この委員会ができて、丸3年ですかね、佐賀市は4、5年やったんですけども、その種の委員会はめちゃくちゃ時間がかかります。だから、時間はかかるんだけど、とはいえ、スピード感はやっぱり必要で、何とか三里地区の取り組みを突破口にして、来年もっと一挙に展開が見えるような形にしていかなければいけない。今、非常にしんどいときだと思います。要は、これは市のトップがやるぞというふうに引っ張っていただかないといけない側面もごさいます。もちろん議会もです。いろんな立場、立場の人たちが、これまちづくり、地域づくりの基本だと私は思っています。いろんな施策、たくさんありますけれども、やはり住民主体で地域を考えるということが全てのベースだろうと思いますので、ぜひとも御検討いただきたい。

参考までに、佐賀市の場合には、そういった意識を法制化するというので、自治基本条例の制定をやったと、その条例をつくるとなると、当然これは議会マターになりますから、当然、市民の関心は一層高くなると。そういった選択まで含めて、いろんなやり方を考える必要があろうかなと、そのようには思います。

皆さん、ほかにございますでしょうか。今日はざっくばらんにいろいろ御意見をいただい

て、次回は2月にもう一度、委員会がございます。その2月の委員会のときには、来年度に向けて戦略的なさまざまな検討課題の洗い出しが必要になりましょうし、三里でこれからさらに動いていきますので、その活動状況等も御紹介いただきながら、次年度以降の委員会のあり方について御検討いただくことになろうかなと思っております。

ほかに御意見——はい、どうぞ。

#### ○木下委員

先ほど話に出ていたんですが、三里のまちづくりをどんどん進めていくんですが、先ほどテーマについてお話があったと思います。テーマを3つに絞ったほうがいいのか、4つに絞ったほうがいいのか、それはケース・バイ・ケースだと思います。先生の御意見はどんなでしょうか。

#### ○五十嵐委員長

私は、いろんな人が関わるといふことと言うと、やはりテーマは多いほうがいいのかと。今、当初想定した5つを3つに集約すると、連携が当然前提とはいえ、なかなか入りにくいのかなという気がします。今やっている既存の活動、それをベースに緩やかに連携するという視点でいくと、私は最初の御提案の5つぐらいのほうがいいんじゃないかなと、個人的な意見ですよ。これは準備会でいろいろ御検討いただいて、3つに集約すると、ちょっと焦点が広がり過ぎて、逆に活動自体の方向性が見えにくくなってしまふんじゃないかなと、そんな印象はちょっと持っています。そのあたり、また御相談をさせていただきますけど、個人的にはそう思います。

ほかによろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

#### ○五十嵐委員長

それでは、事務局にお返しします。

### 3. 閉 会

#### ○池田市民協働推進係長

閉会前に、次回の検討委員会の日程をお知らせしておきます。

計画をしているのが、平成30年2月16日金曜日の午後2時から予定をしております。確

定申告等の時期でもありこの会場が使えませんが、場所は、市役所道向かいの「ゆめりあ」で開催予定です。また、追って通知を差し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○熊谷企画政策課長

皆様、本日も活発な御意見、御議論、ありがとうございました。

小城市としても、まちづくり、地域づくりにつきまして、市民の方に、皆さんの先ほどの意見もありましたように、もっと関心を持っていただくように、どうやったら知っていただけるのか、理解していただけるのか、そして、共感していただいて、その後、行動を一緒にやっていただけるのかということを課題として、今後も進めていきたいと思っています。

知ってもらって、共感してもらって、初めて一緒に何かができるのかなと思っています。その地域地域で、先ほどから御意見があるように、課題は本当に違います。人口が少なくなると、多くなり過ぎて困っているところ、そういうことを今いらっしゃる皆様の団体でもそういう話をさせていただきたいですし、今回、こうやって来ていただいているいろんなNPO、今までの団体と違うところと一緒にコラボして解決していこうというやり方もいろいろあると思います。

こういう会議がないと、なかなか地域に対しての意見とか言えることがありません。確かにスピード感がなくて、お叱りも受けるところですが、少しずつ広がっていくように、そして少しずつ皆さんとともに一歩を踏み出せるように頑張っていきたいと思っています。

本日は長時間、どうもありがとうございました。

これをもちまして、第2回小城市協働によるまちづくり検討委員会を終わります。ありがとうございました。

午後4時50分 閉会